

高齢者に対する地域住民による新たなインフォーマルケアと 介護保険等によるフォーマルケアとの望ましい組み合わせ地域モデルの設計 —農村地域の場合—

代表研究者 冷水 豊(上智大学文学部)

研究の目的

- 1) 介護保険によるフォーマルケア(FC)推進の中で、
新たな住民主体のインフォーマルケア(IC)形成
の可能性を明確する。
*FC: 介護保険、行政等による制度化されたケア
*IC: 家族、地域住民、ボランティア等による制度
化されないケア
- 2) 市町村における地域福祉計画等の策定の基礎となる
小地域でのFC/IC組み合わせ地域ケアモデルを、
「地域生活の質」の観点から、
地域住民、社協、行政等の協働により設計する。
- 3) 「高齢期のケアに関する住民意識調査」の目的
統計調査法により、FCとICに関する住民の意識
を分析する

調査方法

調査対象地域: 長野県茅野市 (人口約5万6千人,
高齢人口比率19.6% (2004.4.現在))
小地域: 両久保区・下古田区
調査対象: (全市)60-74歳の在宅住民の2段無作為抽出
(要介護1以上の入除く)
有効回収票810 回収率76.5%
(小地域)60-74歳の在宅高齢者住民 210名
(要介護1以上の入除く)
有効回収票188 回収率89.5%
調査方法: 訪問面接法 (一部留め置き)
調査期間: 2003年9月~12月

主な調査項目

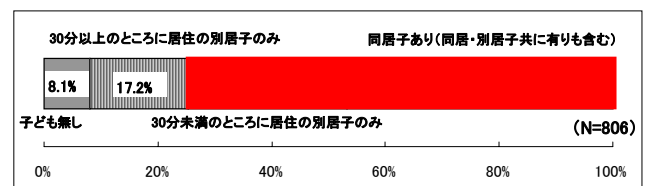
- ① 社会的ネットワークの実態
- ② 社会的サポートの実態
- ③ 地域活動の現状と意向
- ④ 高齢期のケアに対する不安
- ⑤ 公的サービスに対する期待
- ⑥ 公的ケアと私的ケアの組み合わせに対する期待

① 社会的ネットワークの実態

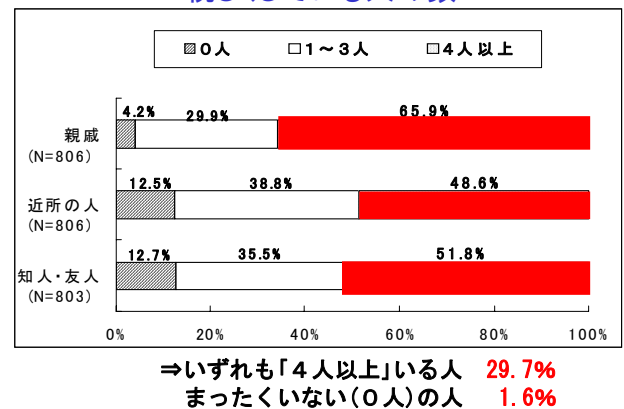
基本属性

性別 男性: 48.9% 女性: 51.1% (N=810)
年齢 平均年齢: 66.7歳

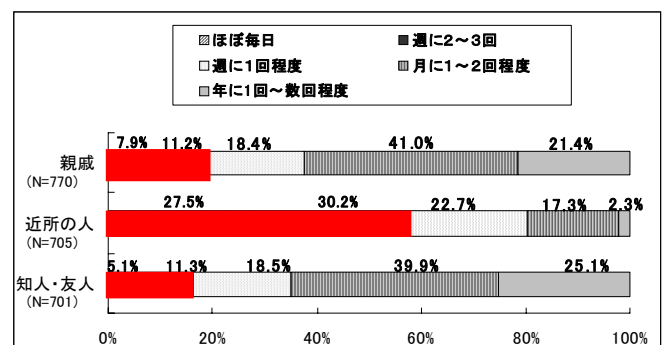
子どもとの距離



社会的ネットワーク 親しくしている人の数



社会的ネットワーク 親しくしている人との交流頻度



結果のまとめ 社会的ネットワーク

子ども

「同居か30分未満のところにいる」⇒75%と多い
親しくしている人

「4人以上いる」⇒親戚が最も多い(66%)が、
近所の人、友人・知人も50%前後と多い。

「週に2~3回以上」⇒近所の人が60%弱と、
親戚20%弱、知人・友人15%強を大きく上回る。

近隣によるインフォーマルケアの
基礎的条件あり

結果のまとめ 社会的サポート

サポートの提供 (に注目)

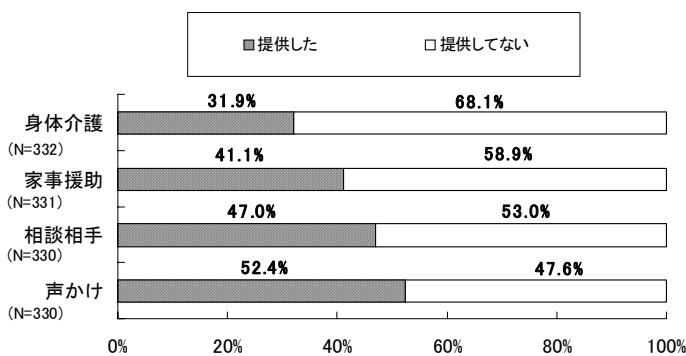
- ・実の親と配偶者の親へ⇒声かけ52% 相談47%
家事援助41% 身体介護32%
- ・近所の人や友人知人へ⇒声かけ30%弱 相談30%弱
家事援助10% 身体介護4%

近隣によるインフォーマルケア
(声かけ、相談などが中心)進展の
可能性あり

② 社会的サポートの実態

実の親と配偶者の親へのサポートの提供

(過去1年間における)



③ 地域での活動の現状と意向

《ボランティア活動》

◎過去1年間のボランティア活動(福祉分野全般)

よくした	少しした	全くしなかった
11.8% (95)	11.5% (93)	76.7% (619)

過去: 23% N=807

参: 第5回国際比較調査 → 社会福祉活動参加率(60歳以上)8.7%

◎今後のボランティア活動参加の意向(高齢者ケア)

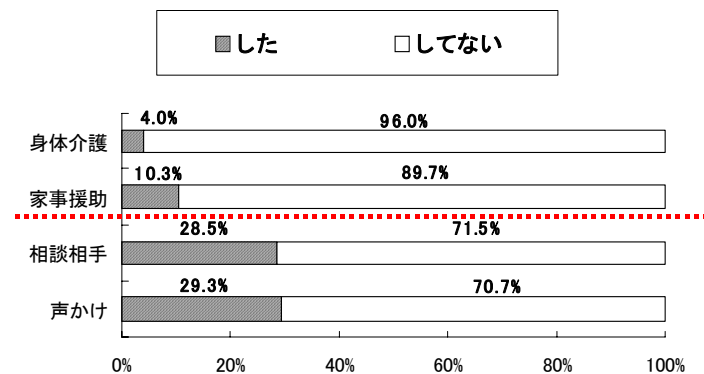
よくかかわるよ うになると思う	少しかかわるよ うになると思う	あまりかかわ らないと思う	まったくかかわ らないと思う
12.7% (102)	31.1% (250)	31.0% (249)	25.2% (203)

今後: 44% N=804

《社会的サポート》

近所の人や知人友人へのサポートの提供

(過去1年間における)



《ボランティア活動の3類型》

【現在将来・継続型】

現在ボランティア活動をしており、今後も続けたい。

19.9%

【将来・参加型】

現在はボランティア活動をしていないが、今後はしたい。

23.3%

【将来・不参加型】

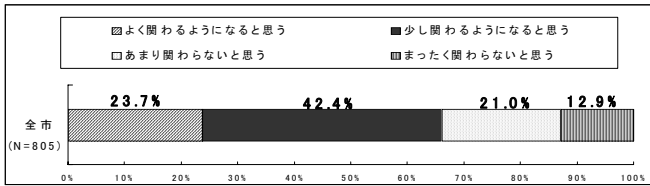
現在の参加・不参加にかかわらず、将来はボランティア活動には関わらない。

56.3%

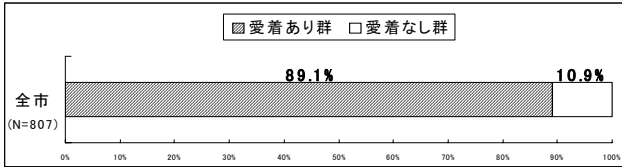
N=801

《地域活動》

近所の高齢者への声かけ活動の意向

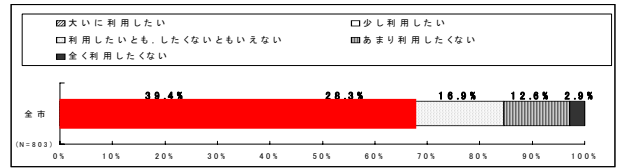


行政区への愛着

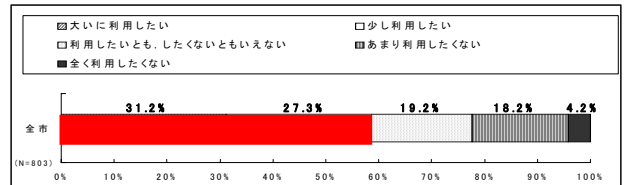


⑤ 公的サービスに対する期待

* 調査時の現状（配偶者がいる者はいる場合）を想定
入浴・食事・排泄介護などの在宅サービス



家事・買物・外出時送り迎えなどの在宅サービス



結果のまとめ

地域活動の現状と意向

ボランティア活動

- ・ 現在参加 25%弱（区・公民館活動とは一定の違い）
- ・ 今後参加 45%弱（「将来・参加型」25%弱に期待）
- ・ 将来参加型は、男性、有職が多い。
- ・ 小地域による差はかなりありそう。

近所の高齢者への声かけ活動の意向有⇒66%

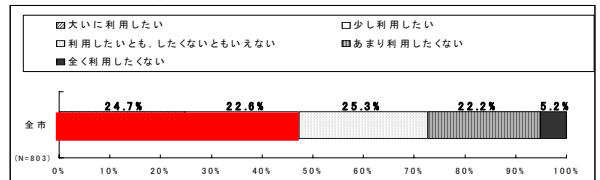
行政区への愛着⇒90%



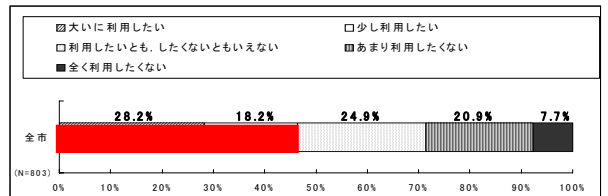
地域でのインフォーマルケア
担い手形成の潜在力大

《公的サービスに対する期待》

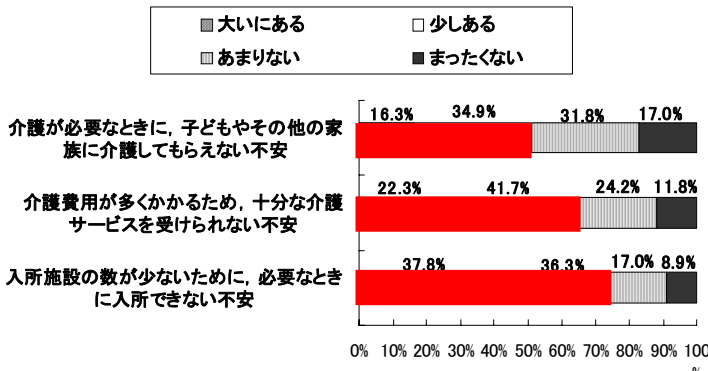
ケア付き住宅やグループホームなどの利用



特別養護老人ホームなどの介護施設への入所



④ 高齢期のケアに対する不安



結果のまとめ

高齢期ケアの不安と公的サービスへの期待

高齢期のケアへの不安

家族介護51% 介護費用64% 施設入所74%

公的サービスへの期待

介護(在宅)サービス68%

家事援助等(在宅)サービス58%

住宅型施設47% 介護施設46%



高齢期のケアへの不安大きく
公的サービスへの期待も大きい

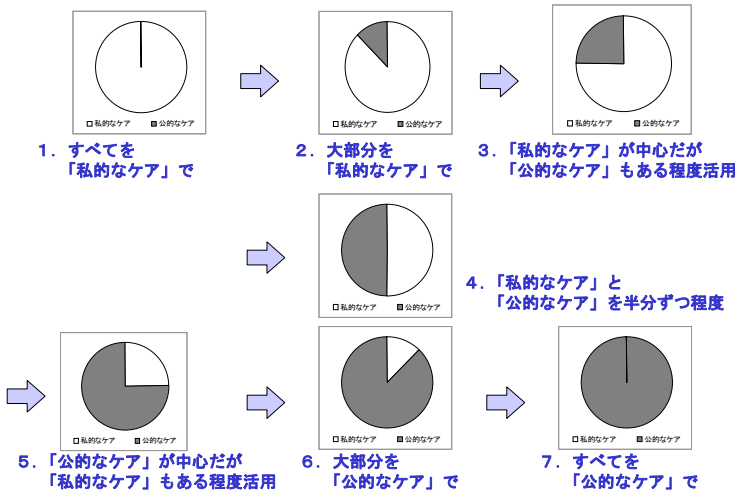
⑥ フォーマルケアとインフォーマルケアの組み合わせに対する期待 (=選好)

問：あなた自身の意向としては、「私的なケア」と「公的なケア」について、どのような組み合わせを望みますか。

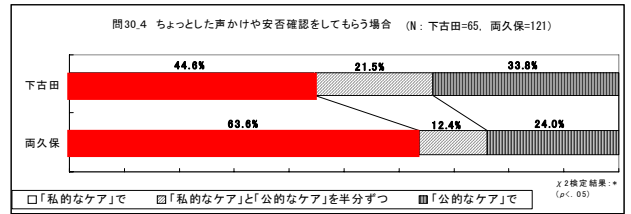
* 調査時に配偶者がいる者も配偶者いないことを想定

- ① 介護が必要な時に、入浴・食事・排泄介助をしてもらう場合 **<身体介護>**
- ② 介護が必要な時に、家事・買物・外出の際の送り迎えをしてもらう場合 **<生活支援>**
- ③ 介護についての心配事などの相談にのってもらえる場合 **<相談>**
- ④ ちょっとした声かけや安否確認をしてもらう場合 (電話の場合を含む) **<声かけ>**

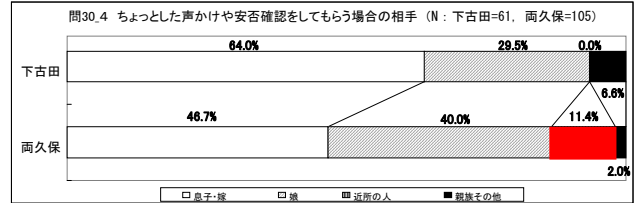
FC/IC組み合わせ選好の回答肢(7件法)



<ちょっとした声かけ・安否確認の選好：小地域比較>



<ちょっとした声かけ・安否確認の希望相手：小地域比較>



結果のまとめ

FC/ICの組み合わせへの期待

FC/IC組み合わせは、ケアの種類により異なる。

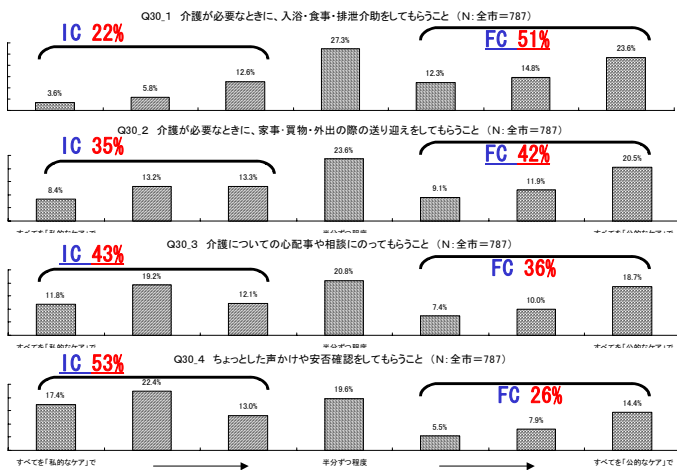
- 身体介護 ⇒ FC 51% IC 22%
- 生活援助 ⇒ FC 42% IC 35%
- 相談 ⇒ FC 36% IC 43%
- 声かけ ⇒ FC 26% IC 53%

ICへの期待は、小地域による違いがある。

両久保は下古田より ⇒ IC特に近隣への期待大

FCとICの適切な組み合わせが大きな課題
—ケアの種類と小地域の違いに即して—

ケアの機能別選好の分布 (全市)



意識調査全体のまとめ

- 1) 社会的ネットワーク ⇒ 近隣によるインフォーマルケアの基礎的条件あり
- 2) 社会的サポート ⇒ 近隣によるIC (声かけ、相談中心) 進展の可能性あり
- 3) 地域活動 ⇒ 地域でのICの担い手形成の潜在力大きい
- 4) 高齢期のケアと公的サービスへの期待 ⇒ 不安大きく、FCへの期待も大きい
- 5) FCとIC組み合わせへの期待 ⇒ 適切な組み合わせが課題—ケアの種類と小地域の違いに即して—

FC/IC組み合わせのモデル地域へ!